

美歴だより

諫早市美術・歴史館だより

CONTENTS

館長のつぶやき	2
BIREKI・レポート	3
収蔵資料の紹介	4
いさはやの歴史	5
美術の部屋	6
古文書の部屋	7
お知らせ	

Isahaya
Museum of
Art & History
Museum News
Vol.21



令和、初めての年明けは、
優雅な音色と共に・・・



(出演：岸川社中)

～書・日本画（中村馨コレクション）オープニング～新春お琴コンサート

「諫早菖蒲日記」との出会い

昨年5月郷土諫早の芥川賞作家「野呂邦暢」氏を顕彰する「菖蒲忌」が本館で催されました。私にとって初めて経験する「菖蒲忌」でした。そこでは高校生による「諫早菖蒲日記」（一部）の朗読を拝聴することができました。お恥ずかしい話、私は野呂邦暢氏が執筆した「諫早菖蒲日記」の存在をその時初めて知り、その内容、表現の素晴らしさに心打たれました。

芥川賞作家「野呂邦暢」氏については、以前勤務していた県立長崎図書館において郷土資料収集に関する会議に関わったことで認識していました。芥川賞受賞作「草のつるぎ」の直筆原稿や出版社との書簡、氏が通った古書店街での写真集などについて、購入の是非を審議する場でした。長崎県に芥川賞作家がいらっしまった。しかも今暮らしている諫早に。作品の直筆原稿を身近に見る機会を得て、驚きと感動を覚えました。そして「菖蒲忌」に参列させてもらい、今また古の諫早を舞台にした歴史小説「諫早菖蒲日記」に出会えたことに喜びを感じました。

本館の図書資料に1995年文藝春秋発行の「野呂邦暢作品集」を見つけ早速読み始めました。小説の内容はもちろんのこと、その舞台である江戸末期の諫早家・諫早領の動きや古の歴史事象なども私を引きつけました。ちょうど「菖蒲忌」を迎える前に、図書資料「諫早近代史」（平成2年9月1日諫早市発行）を参考に諫早の歴史を学び、整理し、資料化したところでした。そのことが功を奏し、私のつたない知識との接点を見出しながら読み進めることができました。

しかし、作品集の後に記されている野呂邦暢氏による「あとがき」に意識が向いていなかったことが悔やまれます。

「諫早菖蒲日記」は、主人公「志津」を中心に描かれ家族の出来事を綴っていますが、そこには当時の諫早の状況やそれに至った経緯、武家のしきたり、佐賀藩との関係、本明川の氾濫による洪水、世の中の動きが絡み合っています。

読み進めていくうちに、「江戸時代末期の諫早を舞台に、当時の様々な人間の動きがあり、過去の歴史に影響されつつ“とき”が流れていく。志津やその家族、諫早の動きを歴史と絡めながら表現できないだろうか。」と思い始めました。例えば、小説のはじめに志津の住まいから父、伯父、吉爺とともに「平松神社」「伊佐早城址」に向かう場面がありますが、当時の諫早のどの道を通ったのか、また諫早を襲う水害の翌日、志津の母が吉爺と共に執行家へ赴いた道はどうか等々を現在の地図に重ねながら表してみたいと新たな興味・関心がわいてきたのです。また、第一章で志津が雄斎伯父を真似て「諫早家の祖龍造寺公は、もともと鍋島の主であったという。世が世なら、鍋島こそ諫早家の前に膝を屈しているべきである」と言っています。その辺りのいきさつはどうか、さらに当時の農民の風習「実盛虫追い」の意味・謂れ、近代銃・大砲はどんなものか、などを調べ、整理し資料に付加していくことにしました。

長い作業になりましたが何とかスライド化するまでに至りました。作業を進めながら「こんな作業は、小説の素晴らしさを褪せさせ、野呂邦暢氏や諫早菖蒲日記という作品に深く思いを寄せておられる方々に対して失礼ではないだろうか。」とも考えましたが、お許しいただけると幸いです。

後日、「諫早菖蒲日記」の「あとがき」や評論を読みました。野呂邦暢氏はその中で作品を執筆するにあたって「諫早市史」を参考にされたこと、そしてその存在に感謝されています。

今、「諫早菖蒲日記」を執筆された野呂邦暢氏の作業を追ってみたいとの衝動にかられ、改めて「諫早市史」を手にし、作品の内容と照らし合わせながら参考にされた部分を追っているところです。

「諫早菖蒲日記」という作品の深さと広がり、文学的な要素だけではなく、この小説を執筆するにあたっての野呂邦暢氏が行った準備、歴史小説への思い等々、読み手の興味・関心を大きく広げ探究意欲をわかせる作品でもあるように思います。

BIREKI・レポート

「歴史コーナー解説シート」ができました！

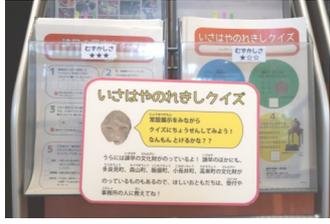
当館の常設展示は、「諫早の歴史」、「諫早の美術」、「昔の道具」のコーナーに分かれています。今回作成した歴史コーナー解説シートは「諫早の歴史」のコーナーの展示分で、小学生・中学生にも分かりやすい内容で作成しました。（勿論、大人の方もぜひご活用ください😊）



展示資料の解説だけでなく、展示資料に関する写真や、その時代の流れや背景なども一緒に学ぶことができますよ！



常設展示室前のベンチの上に設置しています。ご自由にお使いください。 ※使用後は元の場所へお戻しください。



★いさはやのれきしクイズ
 来館の記念にと、持って帰られる方が多いです😊
 ぜひ歴史コーナー解説シートで常設展示を楽しんだ後はクイズにも挑戦してみてくださいね～！

諫早の30年を振り返る・・・

観覧無料

平成諫早年表展

会期：令和2年2月19日(水)～3月16日(月)
 10:00-19:00 (最終入場18:30) ※火曜日休館

平成から令和に変わり早9ヶ月…。「令和」にも慣れてきました。諫早市美術・歴史館では令和への改元を機に、平成の諫早を振り返る「平成諫早年表展」を開催します。30年間というと、長い歴史の中ではまだ「歴史」というほどの重みは感じられないかもしれませんが、今日の諫早はどのようにして発展してきたのか、どんな出来事があったのかを年表を中心に振り返ります。

(福井遙香)

収蔵資料の紹介

VOL.3 甕山焼 (かめやまやき)

諫早市西郷町の茶臼山に在った窯です。諫早家の御用窯で、時期により「小松甕山焼」と「内田甕山焼」とに区分されます。茶臼山はやや小高い丘といったところで埋津川(半造川)に近く、諫早会所(役所)にも近い距離にあり、諫早家初代龍造寺家晴公が伊佐早へ入部のさいには、それまで伊佐早を統治していた西郷勢との合戦の場となったところです。

「小松甕山焼」は諫早家産物方により天保4(1833)年に開窯しました。諫早家の『日記』、天保6(1835)年の記事に「去夏以来産物方手配にて茶臼山へ甕山仕立相成候付、伊万里郷桃ノ川甕作り刃之助と申す者雇入れ・・・」とあります。桃川は現：佐賀県伊万里市松浦町桃川です。小松甕山の製品については不明な点が多いのですが、こうした陶工を招いて水甕など甕製品を焼いていたと思われます。またその閉窯については、時期や経緯など分かっていません。

「内田甕山焼」は閉窯した「小松甕山焼」を明治初年坂口作左衛門が継ぎ、さらに内田伊左衛門が引き継ぎ、甕山焼(内田甕山焼)として再興し、昭和初めころまで焼いていました。「小松甕山焼」と同じく甕の製作を主体に土管や鉢、瓦といった日用品の陶器を焼成していましたが、伝世品は多くありません。当館収蔵の個人日記に「昭和2年12月、便所土管製作を内田に注文す、旧正月に入り製作して見ましようとの返事」とあり、その年の5月に「兼て注文の土管を内田陶器製作所より受領す」とあります。写真は、大正14年の銘がある鍾馗像です。陶器であることやユーモラスな表情から、温かく、親しみがもてる作風です。こうした作を見ると、土管などと共に細工物も手掛けていたのでしょうか。手慣れた作りです。内田甕山焼についても閉窯の時期は不明です。



しょうき
鍾馗像 (美術・歴史館所蔵)



内田伊左工門頌徳碑 (茶臼山頂)

御泊

一 湯江

湯江より多良迄道法四里

御右宇良村 高三百七十八石一斗三升一合

外に、新田高百二十二石一斗八升

此所、長里村より大浦村迄の処、御役方御差図これ無きに付き、尋ね込み置き候事

御右長里村

長里村

高五百四十六石一斗八升四合

内新田百三十三石九升二合

松平肥前守領内御通筋、御左右村々石数高

藤津郡

御左右糸岐村 高八百四十七石二斗三升

外に、新田高百五十五石九斗七升五合

外二新田高八十石八斗四升八合 北糸岐村

一 高三百四十八石七斗九升六合

外二新田高七十五石一斗二升七合 南糸岐村

一 高四百九十八石四斗三升四合

右二ヶ村合せて、本條石高

御左右多良村 高千三十九石六斗六升二合

外に、新田高百二十二石五斗六升三合

外に、新田高七十四石三斗八升六合 北多良村

一 高四百六十二石五斗九升一合

外二右同四十八石一斗六升七合 南多良村

一 高五百七十七石七升一合

右二ヶ村合せて、本條石高

御休

一 多良 多良村より濱町迄道法三里七町

此の向う、濱町迄村石高書載有り、略す

一 御家中に小路棲居家数相尋ねられ候節は、六十軒余り、尤も、小家は数多御座候由、御答申し上げ候様の事

一 御立飼馬并び、御家中立飼馬相尋ねられ候はば、馬十五疋、御家中立飼六七疋にても御座あるべき哉、委敷義は相心得申さ

ず旨、御答申し上げ候様の事

一 市中地料米相尋ねられ候節は、一反に付き、凡そ三斗五升位

相懸り居り候由、御答申し上げ候様の事

一 一村数相尋ねられ候節は、当郷五拾ヶ村余りと、御答申し上げ

候様の事

一 東西道法里数相尋ねられ候節は、左の通り、御答申し上げ候

様の事

山田ヨリ唐比江 弍里 唐比ヨリ諫早江 三里

諫早ヨリ湯江江 三里 湯江ヨリ多良江 四里

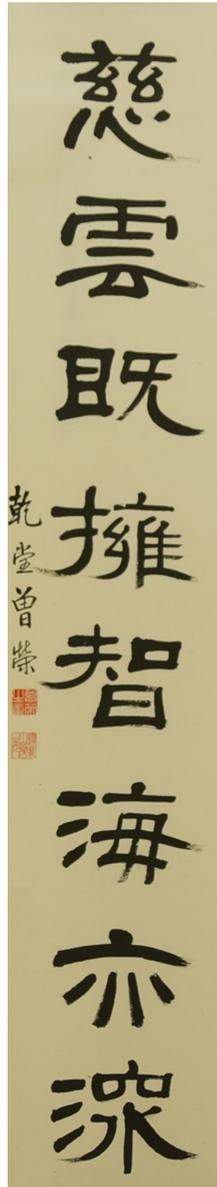
多良ヨリ濱江 三里七町

Vol.9

美術の部屋

-諫早・長崎ゆかりの作家-

坂本竜馬とも親交があった小曾根乾堂



慈雲既擁智海亦深

澤雨無偏心田受潤



◀小曾根乾堂
(中村馨コレクション)

小曾根乾堂 文政11-明治18 (1828-85)

諱を豊明、通称栄、字を守辱、乾堂は号。江戸時代末期から明治にかけての長崎屈指の豪商で、書や画、詩など文芸に秀で、なかでも篆刻に優れていた。

古文書の部屋

漢文・古文と古文書

古文書の読解をする際に、漢文や古文の知識・教養が必要になる時があります。漢文や古文の用語や文法といった教養は、日本の語学としての知識だけではなく、古文書の読解に役立ち、過去の日本人の生き方を掘り出せる道具でもあります。今回は、古文書と漢文・古文とのかわりについてご紹介します。

◎ 漢文の文体とは

文字を持たなかった日本で最初に漢字を導入した古代には、日本語を文章に書くという概念が存在せず、漢字とともに漢文がそのまま導入されます。後に「訓読」とよばれる方法によって日本語として読むようになりました。

《漢文独特の文法》

- ・「再読文字」(未、将、須、猶…など) ・「返読文字」(有、無、難、雖…など)
- ・返読するための記号である返り点…「レ点」や「一两点」、「上下点」など

参考

漢文訓読体

…漢文を訓読により仮名交じりで書いたもの。公文書や詩に用いられた。奈良時代から近世にかけての一般的な文体で、近代に制定された法令もこれに近い文体を用いていた。

◎ 古文の文体とは

私たちが中学から高校にかけての学生時代に学習する古文とは、書き言葉としての文語体の種類の中でも「和文体」や「和漢混交体」という形式で書かれた古典を扱い、当時の用語や文法を理解する教科と言えます。

○ 和文体

…平安時代中期の話し言葉（口語）に基づく文体。

清少納言や紫式部の作品が代表的。短歌や俳句にも多用された。

○ 和漢混交体

…「漢文訓読体」と「和文体」を交えた文体。

平家物語などの軍記物が代表的。

《古文独特の文法》

- ・係り結び(強調構文)：こそ~けれ(已然形)、ぞ~なむ(連体形) …など
- ・歴史的かなづかい：あはれ(あわれ)、こゑ(こえ)、てふてふ(ちょうちょう) …など

◎ 近世古文書の文体とは

上記の文体の特徴を引き継ぎ、あるいは一部が変化していき、鎌倉時代になると、文末に助動詞の「候(そうろう)」を用いた「候文(そうろうぶん)」が登場します。

候文は江戸時代に入ると公文書や商用文書、その他、庶民の間での私的な文書でも広く用いられるようになります。ひらがなに加え、「変体仮名」や「異体字」も文章に多用されていき、その普及には寺子屋など各地の教育機関が大きく貢献しました。

近世の古文書に用いられる文体は、書面を用いた社会活動を行う上での標準的な書き言葉であり、当時の人々の行動や考えを理解する重要な手がかりになるものです。

お知らせ

発行日：令和2年1月

館企画展

諫早眼鏡橋展

会期
2月21日(金)
～3月30日(月)

10時～19時
※最終入場は18時30分
休館日：毎週火曜日

会場 2階企画展示室
観覧料 無料



特別講演会

『古文書でみる諫早眼鏡橋』
日時：令和2年2月22日(土)
講師：大島 大輔(当館専門員)

『東京の石橋と常磐橋の修復』
日時：令和2年3月1日(日)
講師：西村 祐人
(株式会社文化財保存計画協会主任研究員)

『伝統技術からみた城郭石垣と石橋について』
日時：令和2年3月15日(日)
講師：北垣 聡一郎
(石川県金沢城調査研究所名誉所長)

※各回とも、時間は13:30～15:30です。
ほかにも、関連イベントがあります。詳しくは、ちらし、ポスター、ホームページ等にてご確認ください。

常設展示室

県指定有形文化財(彫刻)
きんせんじ もくそうふどうさんそんそう
「金泉寺の木造不動三尊像」
を展示しています



今回は3月下旬までの期間限定です。

- ふどうみょうおう
(中央) 不動明王像：高87.6cm
針葉樹材一木造、平安後期
せいたかどうじ
(左) 制陀迦童子像：高52.7cm
檜、針葉樹材一木造、平安後期
こんがらどうじ
(右) 矜羯羅童子像：高50.9cm
檜、広葉樹材寄木造、中世中頃

◆常設展示室のご利用について◆

開館時間 10時～19時
(最終入場18時30分まで)
休館日 毎週火曜日(祝日の場合は翌日)
観覧料 高校生・大学生・一般：200円
団体(15人以上) 160円
小学生・中学生：100円
団体(15人以上) 80円

※市内在住または市内在学の小・中学生は無料
※教育を目的として、小・中・高・特別支援学校生などが利用する場合は、引率の教員を含め無料(事前に学校長からの申請書が必要です)

貸館の利用について

美術・歴史館のホール、企画展示室、研修室はどなたでも利用できます。(要予約・有料※減免制度があります)
ただし、利用目的が美術(写真、漫画を含む)、華道、茶道及び歴史などに限られております。詳細は、お気軽にお尋ねください。

個人やグループでの作品発表の場、歴史等の勉強会などにご利用いただいています。

編集後記

新年、あけましておめでとうございます。
当館では、令和になり初めての年明けを、「書・日本画(中村馨コレクション)」で迎えました。1月4日のオープンイベントでは、「新春お琴コンサート」が行われ、寄贈されたコレクションのお披露目にあわわしく、優雅で華やかな夢の演奏に、これ来館の方々が聴き入っていました。出演していただいた岸川社中のみなさま、ありがとうございます。1月～3月は企画展が続きます。貸館では「すまいるスマイル展(1月)」「諫早市小中学校美術展(2月)」などがあります。ぜひ、来館ください。
今年も、よろしくお願ひします。

(野田さやか)